

探究型の学び 楽しさ実感

教え込まれるのではなく、自分で調べ、考える。新しい学習指導要領や大学入試が知識偏重から課題解決型へと変わっていく中、「探究」学習が学校以外の場でも広がっている。昨年末には小学生を対象とした「探究オリンピック」が初めて開かれ、探究型の授業を売りにする塾も人気だ。

課題解決へ 教科超え仲間と

●初の探究五輪

第1回「探究オリンピック」(探究オリンピック委員会主催)の決勝戦が、昨年12月、東京工業大学蔵前会館(東京)で開かれた。

対象は小学生。6会場での予選を勝ち抜いた73人が出場。ランダムに編成した4人1組のグループで、五つの課題に挑戦した。

企画したのは、一般財団法人算数オリンピック委員会とNPO法人学校支援協議会。主催者は「算数五輪は、個人で頭をひねって正しい答えを出すもの。でもこれからの時代は、STEAM(科学、技術、工学、芸術、数学)のような教科を超えた思考力、仲間とともに課題を解決する力も求められる。そういう力



◎金メダルを獲得した4人。左から千木良聡さん、溝口和輝さん、大室言美さん、松木健朗さん
◎様々な道具を工夫して使い、プラレールのできるだけ端で貨車が停止するように試行錯誤する参加者ら
||いずれも東京都目黒区の東京工業大学蔵前会館

を養うために始めた」と説明する。過去2年、試行的に行った「明日の思考力コンテスト」を発展させた形だ。

盛り上がったのは、プラレールを使った課題だった。レールと貨車、重りなどが渡され、つないだレールの端から端まで貨車を走らせ、より端に近い位置で停止させる方法を考える。

あるグループは、レールの端の高さを変化させることで、貨車を止められないか模索した。だが、どうしても貨車は戻ってしまふ。別のグループは、貨車に載せる重りの重さで調整。端で止まったことに歓声を上げて、審査員の前で再現すると止まらず、「あー」とため息……。「データをきちんと記録して再現する

オンラインで配信 テーマ多彩

●塾や研究機関

探究型学習を売りにする塾もある。2012年にできた探究の専門塾「探究学舎」(東京都三鷹市)では、小中学生を中心に、歴史、宇宙、元素、ロボット、建築など、テーマごとに、何日かかけて教室で教えている。

昨年からは、一部授業をオンラインでも配信してきた。その経験を生かし、コロナウイルスの感染拡大予防で休校が続く中、3月20日まで毎日午前中に90分の探究ライブ授業をYouTubeで配信した。偉人編では、ステイブ・ジョブズに始まり、ミドリムシを活用した開発で知られる「ユークレナ」(東京都)の出雲充社長本人まで登場して、子ど

力も問われる。別の課題では、学校で400家庭からアルミ缶を集めて、車いす1台を寄付するのにどれだけの期間が必要かを考えた。すると、あるグループの1人が「家庭のアルミ缶の消費量の平均を調べる必要がある」と言い出し、審査員に許可を得て見学していた保護者らに消費量を聞いて回り、そのデータを元に考えた。

評価は、ルーブリックという評価形式を使い、答えが正しいかだけでなく、「問題解決へのアプローチ」「アプローチの実行」「解決の交流」などの項目によって総合的に採点される。大会委員長の西村圭一・東京学芸大教授は「個々の得意不得意に合わせて課題を分担するグループもあれば、順番にみんな得意を言い合い取り組むグループもあった。互いに意見を言い合って思考する姿や豊かな発想が見られた」と話す。

金メダルには、首都圏の小4と小5の男女4人が輝いた。監修者の細水保宏・私立明星小学校校長は「算数五輪では、塾などで勉強強してきた子が上位に入る傾向がある。もっと幅広い子たちに探究、思考する喜びを広げていきたい」としている。

新指導要領が背景

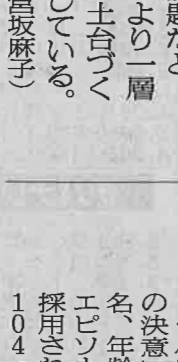
こうした動きの背景にあるのは、小中学校の学習指導要領で「探究学習」が重視されてきていることだ。高校では地理探究、理数探究など「探究」の名がつく科目も新設される。

文部科学省教育課程課の担当者は「日常生活と結びつけた課題など、様々な探究活動はこれからより一層重視される。小中学生での土台づくりも大切にしてほしい」としている。(宮坂麻子)

多くの中高生の問題意識 高めた

人は、授業で見てもらえるよう 50分に編集して、福島や大阪の8校で上映し、中高生約千人に視聴してもらった。

アンケートでは、約8割が原発への関心が向上したと回答。その要因の多くが、新しい知識の



◆小中の決意の名、年齢エピソード採用された104

韓国語 流ちょうに話したい

愛知県大

小五

書

その要因の多くが、新しい知識の

